

「幸せな老人」というタイトルにふさわしいシーンをデザインする



レストラン

窓からの風景も意識して 映画の1シーンを切り取るように

「幸せな老人」というタイトルの映画の食事シーンを撮るとする。どんな部屋でどんな景色が見え、どんなしつらえで、誰と何を食べ、どんな会話を楽しむのか。そう考えると図面を飛び越えて備品まで一気に仕上がってくる。重要なのは単なるいい施設づくりではなく、目の前にいる居住者が幸せかどうか。



公衆電話コーナー



レストラン

会話がゆたかに膨らみますように
そしていつまでも絵になるあなたで居られますように

いつもの時間にいつものところで
ここは自分のままで過ごせる場所、行きつけの場所



読書、語り合い、物思いにふける、活動する そのシーンを眺めることができる
一人でいられる、大勢でいられる、好きな人といられる場をつくる

美楽るほうろ(余暇活動の間)

日本の高齢者にしっくりくる環境設定

欧米のようにすぐに自己選択といかないのが日本の高齢者施設での現状。かといって自己選択はとても重要。余暇活動の部屋では、異なるタイプのゾーンをいくつか作っている。色々なタイプのゾーンがあることで気軽な気持ちでこの空間に居ることができる。周りの様子を伺いながら徐々になじんでいく中で、自分の一番いいコロアイを見つけるスタイルが日本の高齢者にはしっくりくるようだ。



母屋(ダイニング)の食事風景

皆が集う空間に優しさを添えて

孤独を知っているからこそ、誰かがいてくれる喜びも知っている。自分の話に耳を傾け、笑って泣いて、反応してくれる人がいるから日々おもしろい。木の梁やパラソルが空間に優しさを添える。



メリィガーデンでの園芸療法